

令和3年度 高等教育研究コンソーシアム信州 学生活動支援事業活動報告書

| | | |
|--------|-----------------|-------------------------|
| 団体等名 | 奈川えんがわプロジェクト | |
| 代表学生 | 所属大学名・学部・学年 | 信州大学・経法学部・2年 |
| | ふりがな氏名 | 東 大陽 |
| 教職員責任者 | 所属大学名・職名・ふりがな氏名 | 信州大学・教職支援センター 荒井 英治郎 |

| | |
|------|---|
| 活動名 | 「伝統野菜保平かぶの販売プロデュースを通じて松本市奈川地区の地域活性化」 |
| 実施時期 | 令和3年6月～令和4年3月 |
| 実施場所 | 松本市市民活動センター，松本市奈川地区 |
| 活動内容 | <p>【保平かぶの種干しと収穫の体験】</p> <p>2021年度の主要活動として位置づけていた信州伝統野菜保平かぶに関して，種取りと収穫の体験を行った。計画では，種干し，種取り，種まき，収穫といった一連の作業を行う予定だったが新型コロナウイルスの感染拡大により種干しと種取りのみの体験となった。体験を通じて，目的としていた地域の人との交流や奈川地区の風土を知ること，そして実際に触れることで保平かぶについて深く知ることができた。収穫後は，プロジェクトのメンバーで保平かぶを持ち帰り各自で現地で教えていただいた保平かぶの甘酢漬けを作った。大学でも甘酢漬けを配り，多くの学生に保平かぶを知ってもらえることができた。保平かぶの販売プロデュースに関して，まずは自分たちが保平かぶが育つ環境や生産者の思いを知る必要があったため2021年度としては以上の活動となった。</p> <p>【奈川の未来を働き世代から考えるワークショップへの参加】</p> <p>奈川に住む働き世代の方が，奈川の子育て，教育，仕事，暮らしについての不安や不満を共有しそれらに対して解決策を考えるワークショップに参加した。奈川地区は，少子化の影響によって市立の保育園が休園となっている。未就学児の子を持つ親からは「できれば奈川地区で預けられると助かる」といった声が挙がった。また，教育に関しては「学校でチームスポーツなど人数を必要とするものについて，子供にやりたいという気持ちがあってもできないことは問題ではないか」といった懸念の声も挙がった。そのほか，「このような話し合いの場に意味はないのではないか，実際に行動していくしかない」といった声も聞かれた。以上のような，地域の方の生の声を聞くことは奈川の将来について深く考えるきっかけになった。ワークショップ後，メンバーで行われたミーティングでは奈川のような人口が減り高齢化が進んでいる地域は将来について考えれば考えるほどネガティブな意見が多く出るといった意見がでた。プロジェクトとして「地域の活性化は，地域の方が今をより楽しく充実した毎日を生きること。その積み重ねである。」という考えで一致し将来からの逆算ではなく，今の積み重ねを大切に大学生がどのように関わっていくと良いのかについて考える機会になった。</p> <p>【えんがわだよりの発行】</p> |

奈川えんがわプロジェクトは、松本市役所地域づくり課と連携し活動している。地域づくり課の方には企画や年間計画などを一緒に作成したり、学生側からの意見を奈川地区地域づくりセンターを窓口として奈川との調整を担ったりしていただいている。ゆえに、奈川で活動すること自体はスムーズにできるが地域での活動は地域の方との信頼関係がなければ活動に広がりや深さは生まれえないといった点で学生側からの情報発信の手段としてえんがわだよりを作成した。今年度は、実際に奈川で保平かぶを収穫したことや地域の方から歴史について話しをお聞きした内容をまとめて発行した。また、年度が代わるタイミングでメンバー紹介の内容をえんがわだよりにまとめる予定である。

2021年4月から本格的に活動をさせていただき、試行錯誤をしながら奈川にある資源や奈川の風土を知ることができた。ワークショップに参加した際には、「大学生が入ってくると議論が深まる」といった言葉やワークショップ中に子守を担当した学生には「助かった、できる範囲でまたお手伝いしていただきたい」といった言葉をかけてもらった。

今年度、ロングフィールドワークを行う時期に新型コロナウイルスが感染拡大してしまい、夏には奈川地区でも降雨が続き安全に活動することが難しいという理由で満足に奈川地区を訪れての活動ができなかった。今後の課題に関しては①できるだけ多く奈川を訪れる機会をつくる②保平かぶに関して認知向上につながる活動をおこなう③大学生が、奈川と松本市街地、奈川と学生をつなぐ架け橋になることの3つが上げられる。①に関しては、発足したばかりという状況や新型コロナウイルスの感染拡大もあり今年度は数回しか訪問することができなかった。地域で活動することは、地域の方の理解や支援があって成り立つものであると考えている。最低でも月に1度は奈川を訪れ、客としてではなく当事者意識を持って奈川地区の方と交流していきたい。②に関しては、今年度保平かぶに関しては2つの工程を体験するだけの活動になってしまった。その中で、生産者の思いや生育について大変なことなどを知ることができた。現在、保平かぶは甘酢漬けとドレッシングとして出回っているがこれらがもっと広く認知されるようにパッケージデザインの見直しや広報活動に力を入れていきたい。③に関しては、松本市で生活しながら奈川地区について認知していない人がたくさんいるといった現状を少しでも変えたいと考えている。今年度の活動では、自分たちが奈川について知ることに精一杯になってしまい SNS を使った広報やイベントを企画できなかった。次年度では、市役所の応援チームや奈川地区を巻き込んで活動をおこない広く認知されるように試行錯誤を行っていきたい。

活動の成果と今後の課題

【活動の様子】



【えんがわだより第1号】

えんがわだより 第1号 2021.12.6発行
発行者：奈川えんがわプロジェクト

11/6~7 保平かぶ収穫体験

11/6 保平かぶ
当日はとっても良い天気！
地域の方々に挨拶をして、
作業にとりかかります。
(農学部 1年)

「保平かぶ」とは
奈川の伝統野菜の
赤かぶ

取っ手もいれま
された初めての
経験でした！
奈川をより愛する
ために頑張ります。
奈川を
応援します。
農学部 1年

かぶと野菜に取っていただきました。
かぶは大変でした。市販のものも頑張ってます！
(経済 2年)

青い空！赤いかぶ！
白い雲！ほのぼの！
全部最高の思い出。
また藍心に行きます！
(経済 2年)

かぶを少し分けて頂き、
自分たちで漬物にする
体験をしました。
後日、出来たものと食べ、
おいしく仕上がっていました！
(経済 2年)

奈川の郷土料理
「とういも」!!
シメのみいでるで
最高です!!
農学部 1年

投計籠
としい

奈川に長年住んでいっしょ
思地 愛子さんの貴重なお話を聞きました。
農学部 1年

～奈川って知っていますか？～
松本市中心部から車で約1時間、標高1,000メートル以上の高地にある松本市奈川地区。人口は700人弱ですが、古くから野麦街道などが通る交通の要所で、獅子舞などの文化が今も受け継がれています。
奈川にはとういもや保平かぶ、えごまなど伝統ある食べ物が多く、また、キャンプ場やスキー場などアウトレックを楽しむ場所としても人気です。
最近では都市部から移住する人がいたり、クラインガムデンという滞在型市民農園に都市部から応募する人も多かったりと、今アツい地区でもあります。

～奈川えんがわプロジェクトの紹介～
昨年度の松本市の寄付講座で奈川に興味を持った学生が主体となり、今年4月に発足しました。プロジェクトではこれまで現地では保平かぶの種干しや収穫、漬物の体験をしたり、地区の未来を考えるワークショップに参加するなど奈川の方々と関わりながら活動してきました。今後は、地元の人との交流を続け、奈川の歴史を勉強したり、魅力を発見したりして、それをSNSや紙媒体で積極的に発信していこうと思います。また、来年度は保平かぶを育て、収穫するまでの一連の作業を体験できたらと考えています。

～お楽しみ～
「やっぱりいいとこだな」紅葉した山々を前にそう感じて始まった今回の収穫体験。大学ではなかなか体験できない非日常感を感じることができました。時には暑で円になってお茶をし、時には山を凛然と見ながら雄大な自然を感じました。また、また行きます！

奈川えんがわプロジェクト Instagram
私たちの活動や奈川の魅力を発信しています！

- ※記述が枠内に収まらない場合は、枠を拡大してください。
- ※活動内容が分かる資料や写真等があれば、添付してください。添付書類を含む活動報告書一式は、A4判4枚以内にまとめてください。活動内容だけでなく、活動団体のPRを行うことができる動画を添付することも可能です。
- ※提出された活動報告書一式は、各関係機関等に公表するとともに、高等教育コンソーシアム信州のHPへの掲載を予定しています。他人が写った写真等を許可なく使用しないなど、著作権や肖像権に配慮してください。